

利益よりも、産業の或部門だけの利益を尊重しがちである。そこで全體に亘る經濟的計畫を樹て、それを實行し、依て勞働階級全體の利益を均等にし、社會全體の利益と認められる原則を法律に制定するものが、全國的な經濟評議會である。斯様にしてサンデー、カリズムの局部偏重的傾向は消滅する。同時に、サンデー、カリズムが呪詛した官僚化の問題も解決された。ソヴィエトの大會、ソヴィエトの執行委員會は、無産階級の政治的權力であり、無産階級の武器であつて、資本主義的壓制の道具ではない。ソヴィエト政府は民主的な政體であり、勞働者の支配する政治的形式であつて、この性質は赤裸々に露はれて居り、決して民主的な文句でうはべを飾るこゝなどはしない。同時に是は革命的勞働階級が最も明白に、露骨に、ありの儘に自己の意思を發表する制度である。斯様にしてブルジョア・デモクラシーの時代には解せられなかつた官僚主義の問題は、解決されたのである。

サンデー、カリズムは官僚主義の傾向を蛇蝎視し、官僚主義とその組織とを剝滅しようとしたが、遂にそれを果たすことができず、口先で其等を否定した。けに止つた。資本主義の社會では、無産者はたゞ資本家の食卓からこぼれ落ちる知識のパン屑を拾ふこゝしか出來ず、勞働運動に關する問題ですらも、勞働者全體が研究し得ぬために、その問題を研究する暇のある、少數の専門的官僚的指導者に任ねられたのである。ところが資本主義が倒れて後、無産階級を眞底から目ざまし、その一切の能力を發揮させる社會革命が進行してゐる最中に、無産階級が自分の問題を自分で取扱ふ最初の機會は與へられたのである。

代議員を何時でも改選するこゝが出來、代議員は又絶えず自分の選挙區、即ち工場に復歸すること、なつてゐる。ソヴィエトの制度は、無産階級が資本主義の世界を變へて、社會主義を建設し得る唯一の方法である。

露國革命を否認する總ての「えせマルクス主義者」が、これまでソヴィエトによる政治組織には、毫も批難を加へないのは面白いこゝである。若しソヴィエト政治を攻撃するとなれば、それは取も直さず、官僚と財閥の代表者「が國政を料理する帝國主義の秘密内閣を擁護するこゝ」なる。議會は討論會である。討論會には工場を管理し、鐵道を

働者が専門家に協力して、一國の經濟生活を調節し指導することゝ認めるか、二つに一つをこゝる外はない。所謂民主的國家の内情を少しでも知る以上、ソヴィエト政府の反對者こゝも、流石に財閥と官僚との押れ合ひの現行制度を辯護するほどに鐵面皮ではなく、ただ國民全體の發言權——實はブルジョアの發言權——を主張してお茶を濁してゐるにすぎない。要するに彼等は無産者革命の基礎であり基礎である、肝心要めのソヴィエトの組織そのものには、一指をも加へることが出來ないのである。これは、お歴々の學者達が單に露西亞革命を眞個に攻撃することが出來ないばかりでなく、その眞意を掴むこゝさへ出來ずにある、何より確かな證據である。

歐羅巴の無産階級は、遠からず、學者先生の六ヶしい書物の中で露西亞革命の經驗を學ぶより前に、必ず自分で實際にその經驗を學ぶほどに、急激な進歩を遂げるに相違ない。四ヶ年に亘る世界大戰の慘禍を経たあとで、今日新社會の中で戦ふ無上の幸運を得た吾々は、決して吾々が歐羅巴の無産者の師匠だなど、自惚れてゐる譯ではない。けれども露西亞革命と他國の革命との間に多少の時日があり、露西亞革命の經驗を研究し參りにする餘裕がある以上、露國無産者の奮闘と行動とを、世界の無産者に普く紹介するのは吾々の義務である。事實は雄辯である。ありのままの事實は何人の稱讃がなくとも、無産者の感情に、その頭腦に、眞實の意味を傳へるに相違ない。露國革命は歐洲無産階級の法廷に出て、自分を辯護するに及ばない。社會主義が果して二代に亘る無産階級の優良分子の渴望と努力との的であつたならば、彼等は露國革命の中に社會主義の疑ふ方なき特色を認めるに相違ない。何故なら露國革命は、社會主義を學問から實際へ進めた第一歩だからである。そして彼等は實際露國革命の中に、彼等の夢が事實となつて現はれて來たことを認め始めたのである。ブルジョア新聞の出鱈目な報導や、社會主義の臆病な裏切り者の惡口にも拘りなく、全世界の勞働者は、其眼を露西亞に向けてゐるのである。(カール・ラットク——山川藥學譯述)